

中国西北部内陸地域における農村小額金融組織の扶貧機能と管理システム
— 寧夏回族自治区塩池県の農村小額金融を事例に —

谷口憲治*・鄭蔚**・郭少新***・高石鋼***・劉海濤****・王瑋****

The function of the aid-the-poor program and the system of administration of the farm village micro
finance organization in the northwest district in China

TANIGUCHI Kenji*, ZHENG Wei**, GAO Shigang***, GUO Shaoxin***, LIU Haitao**** and WANG Wei****

Abstract In this study, it was based on the example of the Ningxia Huizu Autonomous Region Yanchi prefecture about a farm village micro finance function in the northwest district in China and a system of administration and clarified it. The following became clear by this consideration.

- 1) This micro credit system was united with life and culture improvement activity not the loan of the simple fund, and functioned continuously. I was able to demonstrate a phenomenon of the endogenous development in the country in China from these.
- 2) The micro credit organizations participated in agriculture reporting, farm products and daily necessities sale, agriculture material purchase store management, and did a company of the small-scale company which used local resources and made an employment opportunity. By it, the general aid organization of the poor farmhouse played a role.
- 3) The interest of this micro credit is not low in comparison with the others. A loan interest rate and a livingry fee are included in it. But time hangs over there for collection and the savings collection of loan funds in the place where traffic is inconvenient for, and a business cost rises in spite of low wage. As these measures, each the grade government, more substantiality of the support of the public financial institution such as the development Bank is necessary.

Keywords: micro finance, endogenous development, Chinese less favored areas

1. はじめに

農村小額金融 (Micro Finance) は、相互扶助による貧困克服金融システムとしてバングラデシュでその実績が注目され、世界各国に普及している¹⁾。これまでの研究でこの農村小額金融の導入により各国の貧困克服が事例的に紹介され、その普及要因、継続的發展要因とその組織、機能について主に金融システム面を中心に考察されてき

た。近年の研究で、その機能が単なる金融面だけに留まらず生活面において機能しており、その要因が単なる利子だけでなく独自の手数料を徴収することにより継続していることが明らかになり、その利子、手数料水準についての妥当性に関して考察されるようになった²⁾。

本稿では、こうした農村小額金融組織の多様な機能と社会的存在意義の先行研究の成果を踏まえつつ、実証的研究蓄積の少ない中国内陸部農村小額金融組織のその存続要因について外的な地域個性に適応した内的な組織運営システム生成・發展要因の考察を行うことにする。この考察を通して地域個性を活かした地域振興・發展方策とされる内発的發展について社会主義市場経済下の中国においてどのように定着しているのか否かを実証的に考

*島根大学, **南開大学, ***寧夏大学, ****島根大学大学院
*Shimane University, **Nankai University, ***Ningxia University, ****Graduate School of Shimane University

察しようとするものである³⁾。改革開放後中国経済の進展の中で、農村金融組織が依然として未整備であるために貧困から脱しきれないでいる中国西北部内陸地域の寧夏回族自治区塩池県において農村小額金融の設立により小産業創設や農業経営改善とともに生活基盤改善に加え、識字立向上による扶貧対策に成果を上げている事例を考察することにより、そこにおける多面的な扶貧対策をする農村小額金融組織の機能とその継続的实施を可能にしている農村小額金融組織の管理システムを明らかにする。この考察の事例となる地域へは、2008年3月3日から4日に訪問し、塩池県小額貸付サービスセンターを中心に聞き取り調査をするとともにそこで入手した同センターの「塩池県小額貸付の紹介」(報告書①)、「塩池県小額貸付サービスセンターの2007年度作業レポート」(報告書②)、センター事務所の展示資料に基づき考察を行うことにする⁴⁾。

2. 寧夏回族自治区塩池県における農村小額金融の成立と組織内容

(1) 農村小額貸付組織と機能

中国においては、1990年代からバングラデシュのムハマド ユヌスによって創設されたグラミン銀行をモデルとして全国で設立されていき、塩池県においては、1996年に設立された、塩池県の実情と農家の資金需要の特徴から農村小額金融を発展させていくためには、単純な貸付組織とは違う組織として塩池県女性発展協会が創設された⁵⁾。

塩池県女性発展協会の事務機関として塩池県小額貸付センターがあり、協会の会員は、小額貸付グループのメンバー、婦人連合会の幹部、小額貸付に貢献のある人からなり、協会が最高の決定機関となっている。貸付対象は、生産・経営能力をもっている貧困な女性が対象で4~7戸の農家がグループ(村小組)になり、数個のグループで村レベルの貸付組(村大組)となり連帯保証を行って

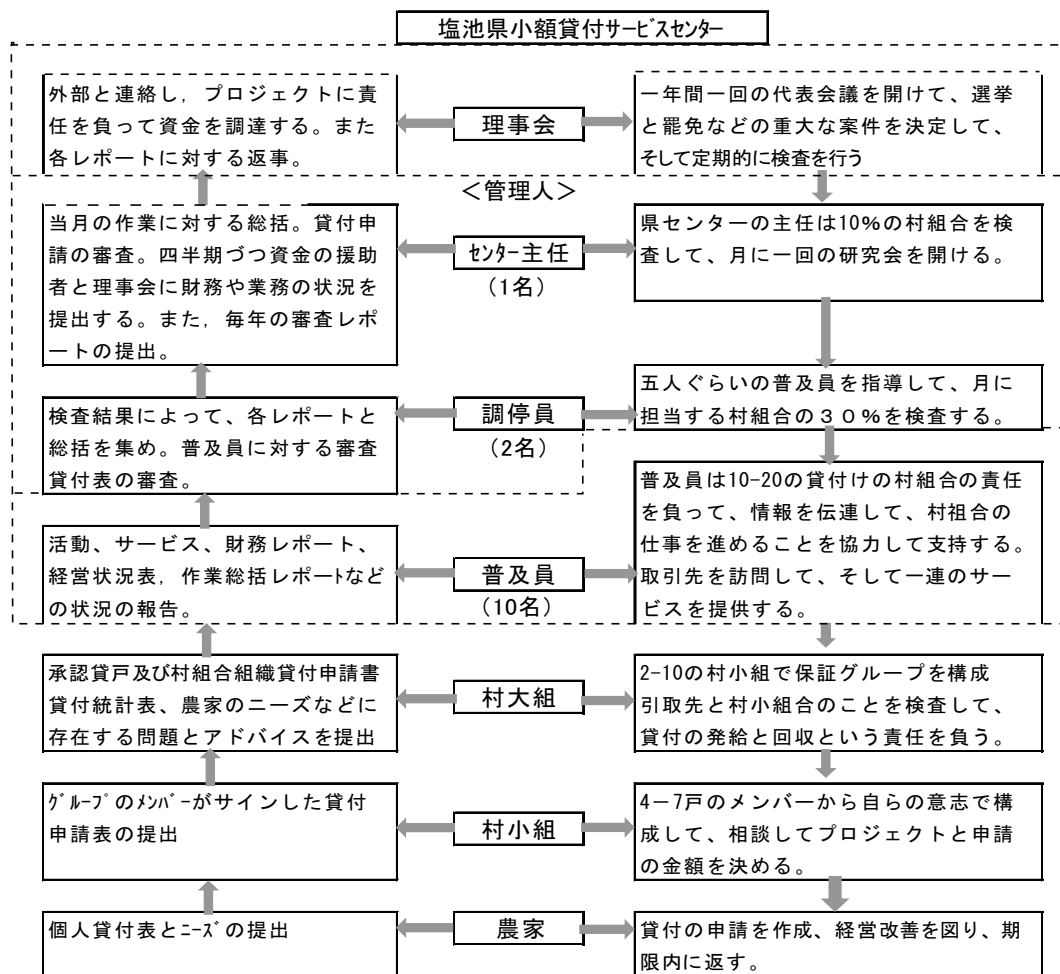


図1 農村小額金融の機能分担

(資料) 塩池県農村小額貸付サービスセンター「塩池県小額貸付の紹介」2007年

塩池県小額貸付サービスセンター「塩池県小額貸付サービスセンターの2007年度作業レポート」2007年12月

いる。協会には普及員がおり、10～20の貸付村グループの責任を負い、技術から識字の指導も行う。これらのことについて示したものが、図1である。

ここに示した図の右側は、塩池県小額貸付サービスセンターが農家に小額貸し付けを実現するために承認を受ける過程を示しており、左側は、農家が借り入れを実現するために書類を申請していく過程を表している。

小額貸付の年間のプロジェクト計画とそれを実現するための外部からの資金調達については、理事会で決定する。ただ、そのプロジェクト内容については、同センターの管理人である中心主任、調停員、さらには、現地の農家グループと接触する普及員の意見を参考にして判断する。この普及員はプロジェクト内容について訓練を受けてよく理解して、農家グループに説明し、農家の経済状況を調査して正確に把握した上で、その農家に適するプロジェクトを推奨する。こうした情報と指導を受けて、農家は、受け入れるプロジェクトを自らの判断で選択し、その申請書を提出し、この判断は、4～7戸の農家の連帯保証の基に行う。これらの村小組単位に責任者として1人のリーダーを関係農家の中から選挙により決め、さらに村大組においても、構成員の中から1人の大組長、1人の記録員を選挙で選出し、普及員の協力を得て、小額貸付村組合組織の日常の仕事を管理している。こうした村単位の管理責任体制の下に大組長、記録員の中から普及員が優先的に招聘され、その普及員の中から調停員が優先的に招聘されることにより、小額貸付サービスセンターは、運営されている。さらに、このセンターの管理人であるセンター主任1名は、塩池県女性発展協会の会員である各小額貸付村組合組織のメンバー、関連している婦人連合会の幹部、小額貸付に対して貢献ある関係者の中から選挙を通じて協合理事が選出され、理事会が開催され、その中から理事長とともにセンター主任が選出されることになっている。

(2) 小額貸付センターのプロジェクト内容

プロジェクトは、農家の需要に基づいて長期の活動方法を提案する。内容は、科学技術と文化、娯楽、技能、文芸などの分野におよび、活動は日常的、大衆的なものである。プロジェクトは、すべての村で一つの活動室を創設し、新聞雑誌、書籍と娯楽などの施設を提供して、農家の活動が展開するようにしている。

これらのプロジェクトを実行することにより貧困軽減を図る小額貸付を行っているが、「塩池モデル」といわれる貸付方法は、表1のとおりである。

この表が示すように、小額貸付の対象は、「生産、経営

表1 貸付方法「塩池モデル」

項目	内容
1 貸付の対象	生産、経営能力を持つ農村の貧困な女性 長期にプロジェクト区に居住している女性
2 貸付用途	経営生活環境改善に繋がる農村発展プロジェクト
3 村組合設立	4～7戸の自助平等相互保障組織
4 貸付獲得	村組合を通じセンターからの貸付受領
5 貸付限度額	100元単位最高額1回2000元、次回から1回1000元増加して5000元が最高額
6 貸付周期	1回半年～1年周期
7 貸付方式	1気に貸付発給
8 村組合例会	月1回例会、貸付回収と発給、育成訓練・文化、娯楽活動、20名の普及員が家庭訪問
9 返金方式	四半期に運営管理費納入（満期時元金完済）
10 資金の用途	自ら生産・経営性の収益プロジェクト選択
11 運営管理費	貸付額を四半期分割して年11.4%納入（10.2%がセンター、1.2%が村組合の活動資金）
12 リスクの補償金	貸付後1か月から毎回村組合会議時に貸付額の1%を預け入れて1回終了時に必ず個人貯金額は貸付額の5%に達する（1年期の場合は10%）

（資料）前掲「塩池県小額貸付についての紹介」

能力を持つ農村の貧困な女性」であり、「経営生活環境改善に繋がる農村発展プロジェクト」を行うために「4～7戸」が「自助平等相互保障」という連帯責任により「村組合」を通じて貸し付けられている。連帯責任を負うグループは、個別責任を明確にするために姻戚関係のあるものは同一グループに参加できない。これらの貸付は、無担保で貸付限度額は、1回2000元、100元単位で20単位となるが、半年から1年周期で一気に貸し付けられる。

貸付の発給は、月1回の例会で行われ、同時に期限が来た貸付回収も行われる。この例会では、こうした貸付回収、発給といった金融機能以外に「育成訓練・文化娯楽活動」をすることにより、生活能力を高める訓練を受け、貧困を解消し、生活改善を自ら可能にする資質を身につける活動を行っており、「塩池モデル」の特徴となっている。このことを実現するために普及員が家庭訪問しており、そのために20名の普及員が必要とされている。そしてこのための費用は、運営管理費として貸付額を四半期に分割した額に対し年利11.4%分徴収される。この内訳は、貸付利子として年利10.2%がセンター分、貸付額の年利1.2%が村組合活動費として充てられる。貸付後は、回収を確実にしていくためにリスク補償金として貸付1か月後の村組合会議の日に貸付額の1%を対象農家から預け入れてもらい、それを個人貯金として積立て、

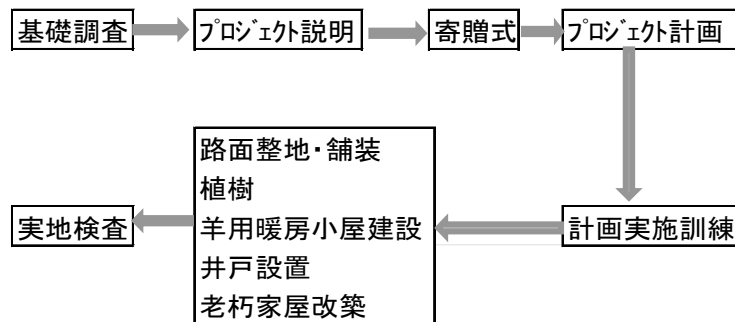


図2 沙記渠自然村のプロジェクト計画と実施
(資料) 沙記渠自然村組合活動室内展示資料

半年後の返済期には5%の額となり、貸付元金完済の場合は個人貯金となるし、回収時の負担を軽減させる機能も持ち、回収を確実にする機能を果たしている。

(3) 自然村におけるプロジェクト実施内容

ここで、調査した塩池県王楽井郷沙記渠自然村におけるプロジェクト計画と実施状況を示すと図2のとおりである。

図2に示されているものは表1の「生産・経営の収益プロジェクト」の一例である。プロジェクトは、基礎調査、内容・計画説明の後、実施訓練を経て、実行される。半乾燥地の塩池県王楽井郷沙記渠自然村において貧困緩和には、生活条件向上のためには道路整備が不可欠となっている。そこから主要道路まで約5km、舗装道路までは、約10km以上あるからである。また、半乾燥地であるため、農業生産条件を向上させるために退耕環林による砂漠化防止策が必要でそのための植樹や羊の冬季舎飼のために暖房小屋が必要となっている。この他に生活改善に不可欠な井戸設置や危険な老朽家屋改築がプロジェクトで実施されている。これらを実資するための資金貸し付けは小額貸付サービスセンターの普及員によってなされているが、その基に村大組のリーダーさらに村小組リーダーが存在する。沙記渠自然村においては、表1の「文化・娯楽活動」として、識字率の向上活動が行われている。そこでは「寧夏回族自治区塩池県愛徳農村総合発展プロジェクト教材の一」を使用しており、小額貸付サービスセンターの普及員が月一回の定例の村組合会議に訪れた時、貸付対象農民に指導・説明し、農民識字読本と「生字本」という漢字練習帳を渡し、一カ月後の次の会議までに漢字練習して提出することになっており、前回の会議に渡した練習帳の点検・指導を行い、識字率を高めることになっている。

3. 塩池県農村小額貸付センターの組織対象域拡大と特質

(1) 塩池県農村小額貸付の推移と対象地域分布

塩池県における貧困緩和を目的とする小額貸付額の年度別推移を見ると表2のようになる。1999年には10万元に満たなかったが、2000年には約30万元、2001年には約90万元と急増し、2002年には100万元、2005年には200万元台に達し、一貫して増大している。これに対し、貸付戸数は、1999年約100戸、2000年には約250戸、2001年には約650戸、2003年には約800戸、2005年度には約1,300戸と増大しているものの貸付額に比べて伸び率は少ない。これらを1戸当たり貸付額にすると1999年約800元、2000年には約1,000元、2001年約1,400元、2002年約1,600元と増加したものの、2003年に約1,500元と減少し、その後、約1,700円で推移し、プロジェクト内容が大規模化しつつも近年は停滞気味となっている。

表2 塩池県貸付額と貸付戸数の推移

年	貸付額 千元	貸付戸数 戸	千元/戸
1999	86	108	0.796
2000	280	258	1.085
2001	924	645	1.433
2002	1,054	645	1.634
2003	1,226	796	1.540
2004	1,656	925	1.790
2005	2,280	1,312	1.738
2006	2,473	1,419	1.743

(資料) 塩池県小額貸付サービスセンター事務所
内展示資料

次に、この小額貸付を利用した塩池県内における自然村の分布を示したのが図3である。

この図が描かれたと思われる2006年度までの塩池県における小額貸付を利用した自然村は、塩池県の中部から

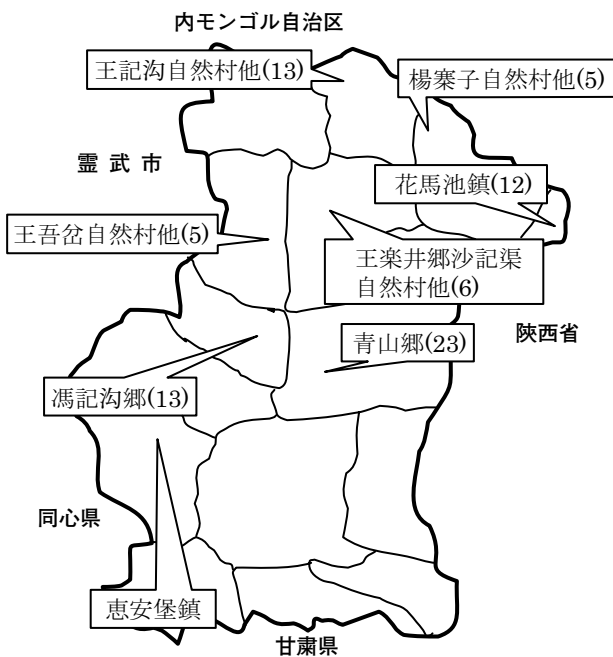


図3 塩池県内小額貸付自然村の分布
(注) 図中数字は自然村数，(資料) 表2と同じ

北部にており、小額貸付サービスセンター事務所がある花馬池鎮を中心に半径約50km圏内に分布している。さらに、対象となる自然村は、存在する地域に散在しているのではなく、約20km圏内に集中している。これらは、事務所から乗用車で日帰りが可能な範囲で、一地域における行動を効率的に行うことが可能となっている。しかし、報告書②には「惠安堡鎮での寧堡、杜記溝、萌城の3つの行政村の10戸の甘草産業村で小額貸付けの宣伝活動が行われ、2008年1月に農民に貸付ける」と実績が報告されている。つまり、花馬池鎮、王樂井鄉、馮記沟鄉を経て、惠安堡鎮、同心縣を結ぶ幹線道路があり、靈武市から甘肅省に向かう国道211号線が惠安堡鎮を通過していることから比較的交通の便が良く、現地へ行って実施するプロジェクトが実行しやすい地域といえる。

(2) 農村小額貸付センターの組織的・経営的特質

こうして発展してきた塩池県の小額貸付は、2007年には一段と進んだ。このことを報告書②からみることにする。それによると「2007年12月末」までに「塩池県小額の貸付けサービスセンターは塩池県の王樂井鄉、青山鄉、馮記沟鄉、花馬池鎮の46の村政村、156の自然村で小額貸付けを実施した」とあり、その結果「小額貸付け村組合組織が158、農民活動室が158、各種類の専門協会が10創立させた。効果のある貸し付け取引先が2,906戸で、貸出残高は831.0万元に達しており、その中の600万元が開発銀行からのものである。今まで取引先が4,175戸、

貸付けの金額が1.45万回で2,734.6万元である」としている。このように、2007年には、開発銀行からの支援があったため小額貸付は急増した。このことは「2007年7月から開発銀行の資金をうけた後に、小額貸付けが迅速的に発展し、下半期に91の新しい貸付け村組合組織が創立させ、貸付け取引先の1921戸が新たに増した」と報告されている。この開発銀行の支援によりセンター組織も「5名の新しい普及員が招聘され、いま10名になった」と拡充した。ただ、こうした変化は、センター組織経営に影響を及ぼした。つまり「年間の貸付運営管理費用の54.56万元を収入し、操作管理費用の35.83万元を支出し、金融コストが19.9万元、年内の損失が1.17万元である…その原因の1つは育成訓練の支出の増加である。5月の普及員養成訓練グループと12月の村幹部養成訓練グループで6.5万元が支出された。もうひとつは開発銀行の資金が帳簿に記入された後に、直ちに発給することができなかったため、資金の全般的な80%に達しない、超過利息の7.8数万元を支払った。上述の2つの支出を差し引けば、中心は10万元以上収益する」とあるように、組織変化に伴い正と負の影響が見られるがこの場合は、短期的に負でも、長期には正となり組織変更は経営的には効果的となっている⁶⁾。

4. 塩池県農村小額貸付センターの地域経済拡充による扶貧機能

(1) 農村小額貸付整備による地域農業の育成・拡充

こうした小額貸付体制整備により地域経済と生活にも効果を及ぼすこととなった。この点について「施設農業と甘草産業が今年の県政府の一つの重大な援農プロジェクトとして各級の政府に重視され」たため、センターは施設農業と甘草農家を調査し「全部で2つの郷鎮（花馬池鎮と王樂井鄉）の18の村で、1,280戸の施設農家」が確認され、「一方、貸し付けした施設農家の中の260戸は貸付限度を増加し、平均して貸付額は以前の1,000元から2,000元まで増加した」としている。また、「同時に、小額貸付けのない施設農村で、農民座談会を18回開いた」とされ、「5つの村の150戸が小額貸付けに参加…惠安堡鎮…3つの行政村の10戸の甘草産業村で小額貸付けの宣伝活動…2008年の一月にお金を農民に発給した」と報告②に記載されている。つまり、この小額貸付けは、施設農業と甘草産業をする農家に対して実施され、その成果が上がったために、貸付限度の増加が可能となったのである。さらに、これらの農業を行っているものの、この貸付がまだ行われていない自然村において小額貸付の普及

活動に努め、貸付けを実現しており、これによる地域経済の基幹農業の育成・拡充を実現しているのである。

(2) 農村小額貸付センターによる農産物の有利販売と農村生活改善

こうした基幹農業をはじめセンターは、「塩池県の農業産業化ネット情報センターと協力して、同報通信の方式を通して、貸付けの農家に農業製品の市況を直ちに発送して、各貸付け村グループが直ちにマーケット情報を掌握することを保証する」という情報提供で農産物有利販売機能も果たしている。この市場情報提供の他に、センター自身の機能として「農資便民店」という店舗経営にも関与している。この点については「2007年センターは…王楽井郷官灘村、青山古郷峰庄村、花馬池鎮沙辺子村、左記湾村に各1か所の農資便民店を設立」したとし、「便民店の創立は、一方で、貸付け農家（特に女性）が遠出しなくても、市場価格より低くて品質保証のある農業生産資材を買うことができる。また、組織を通じて高い価格で自分の農産物を売り出す。もう一方、センターと農業用物資供給商との相談で農家が資金の緊迫する時、一定の期限の掛けで売り買いすること、期限前に農業用物資を使うことが出来、資金の問題を緩和できる」という報告し、貸付農家の経営・生活改善機能を示している。このことによる具体的成果は「センターは各専門協会と便民店を通じて貸付けの農家に柳の枝製品の生産資材年間累計で600トンを提供し、品質のよくて安い化学肥料を14種類で、200トンを提供し、種が31種類で、1トンを提供し、農薬が31種類で1100キログラムを提供し、飼料が4種類で、150トンを提供した」とし、その他にも「センターと塩池県の農業産業化ネット情報センターが協力して、貸付け村グループに《塩池科学技術》という小型新聞を10期で3万数組を印刷して配布した」、「携帯電話の同報通信で甘草栽培技術、防除技術、市場情報などのメッセージ7万あまりを送った」、「統計によると、安価で、品質のよい農業生産財の提供と農家が直ちにマーケット情報を掌握して高い価格で農産物を売り出すという措置で、農家の家庭収入を20数万元増加した」と報告されている。これらのことから、農村小額貸付センターは、農家にとって農村金融とともに情報提供による農産物の有利販売、農業資材・農村生活用品の購買という日本の総合農協と類似の機能を果たす扶貧組織となっているのである。

(3) 農村非農業産業起業促進による扶貧機能

この農村小額貸付センターは、それまで応えられなかった農村の地域資源を活かした産業の起業化する資金を貸

し付けることにより、産業を創設するとともにその地域の非農業雇用機会をつくることにより地域の貧困解消機能を果たしている⁷⁾。先の報告書②には、「今年、陳記堀における柳枝製品協会は会員を組織して柳の枝製品を10数万枚生産して、10万元を収益した」とあるが、小額貸付により「柳の枝製品」生産といった農業以外の産業を行うことによって貧困緩和しようとしているのである。こうした中において、小額貸付対象者である女性による創業が注目され、中国銀行協会による「小型創業賞」を受賞する女性が塩池県に現れた。この点について「花馬池鎮の王記沟村の村長の汪淑蓮が王記沟村の女性を組織して小額貸付けに参加した。数年後、彼女が優秀な組織能力でその村の村長になった。汪淑蓮は…小型創業賞共同至富特別賞を獲得…古峰庄村の貸付け取引先の李清紅と南王村の貸付け取引先の楊秦瑩も…小型創業賞の資格賞を獲得した」と報告されている。王記沟村の村長の汪淑蓮氏は、石膏掘削を手作業で行っており、機械化して地域資源を活かした産業化を考えていたが、どの金融機関もそのために融資してくれなかった。そのような時、塩池県小額貸付サービスセンターの存在を知り、相談し、申請したところ小額貸付が実現し、その資金で石膏産業化を実施し、村に雇用を創出することが出来、貧困緩和をすることが出来た。その功労が北京での小型創業賞受賞に繋がり、村長となったのである。

5. 塩池県農村小額貸付センターの地域社会生活・文化水準向上による扶貧機能

(1) 農村女性への識字率の向上活動

塩池県における小額貸付は、女性を貸付対象とすることにより、産業創設者にすると共に農村女性を中心に識字率の向上に結びつく活動を行う事での社会的地位の向上をもたらした。これらのことは、小額貸付け機能と一体となって行われた。つまり、交通が不便で小額貸付け、回収のために普及員が当該集落に出向いて初めて可能になるという取引費用が嵩むシステムとなっているために再度そこを訪問するには一定期間を要するがその特質を活かして小額貸付機能と識字率向上機能を結びつけることを実現しているのである。報告書②によると「農閑期になって、半月に一回の小額貸し付け村組合組織の会議」において「非識字者をなくす活動」を計画した。そのやり方は「母と子・夫と婦人」を一つの組として「村グループの知識のあるメンバーの指導」を得て、「各区の普及員が責任を負って」実施された。その手順としては「小額貸付半月会議で各グループは非識字者に宿題を配置し、

普及員は不定期の検査を行い、毎月一回のユニット自己テストを行い、非識字者の学習を督促する」形態を取った。これは、小額貸付センターの普及員が一月に1回、貸付資金の提供と回収に当該集落を訪れる際に行われた。この結果、「2007年末までに非識字者をなくす活動に参加する人数は505人で、教材が510冊、ノート1650冊を発給」する実績となっており、「2008年3月にチェックして、合格する人に脱盲証明書を授与する」こととなった。

(2) 農村女性の社会的地位向上機能—識字率向上による効果—

このように、識字率の向上や他の文化活動をすることにより自らの資質を高めることを通じて、農村の女性は、貸付金によって農業経営や農業以外の産業経営の改善を一層促進させることとなり、農村生活水準は向上し、貧困からの緩和も徐々に進んでいった。小額貸付サービスセンターは、資金の貸し付け機能を中心に、市況等農業情報の提供や農産物販売や農業資材購入、日常生活品購入の店舗設置による農村生活向上機能を果たしているが、識字能力をつけることにより、農村女性はそれらの機能を自らが促進させ、社会的地位も高めていけるようになった。農村女性は「小額の貸付けプロジェクトは女性を貸付けの対象にして、お金を貸す女性に資金の支配と経営プロジェクトの決定する権力」を持つようになり、「女性が自分の特技によって経営プロジェクトを決定する」ようになった。その結果、「女性がプロジェクトの選択、経営の時慎重で、責任感があるから、プロジェクトの盲目性を減らし、成功率を高めた」、「女性は貸し付けるお金で豚、羊、ニワトリを飼って養殖業を発展し、経済作物を栽培し、質のよい作物の品種を導入して栽培業を発展し、食糧や油を仕入れ、売店を運営する。多種の経営を通して80%の女性が家庭の収益増加を実現した」、「貸付けごとの終わった後に、農家みんなが経営状況調査表を書き込んだ。239の調査表の統計結果によって、今年1000元の貸付けで776.69元の収益になった」、「三年以上貸付けに参加する取引先の家庭収入が平均的に73%以上増加する」と報告書②に指摘されている。さらに、「豊かな農家が、貸付け農家の8.3%を占め、中、下級の農家が91.7%を占める。貧困家庭を支持する目標を実現した」と述べられていることから、一部の豊かな農家だけではなく、貧困農家層にも及んでいる報告があり、貧困解消は徐々に実現しつつあると言えよう。

6. 塩池県農村小額貸付センターの継続的組織経営

(1) 小額貸付センター経営問題

小額貸付センターの機能と成果については、これまで示したように農業経営、非農業産業企業・経営、さらには農村女性の社会的地位向上といった多様な機能を担い、成果を果たしているが、組織継続上の問題点も存在している。このことについて報告書②は、センターの実働者である普及員について、「資金の規模の拡大や業務量の増大によりセンターではもとの5名の普及員のほか、11名の新しい普及員が育成されてから試用期間に入った」と増員状況を指摘するとともに「毎日オートバイに乗ってすべての村組合組織の会議に参加するのが困難であって、給料が低い」、「いつも数十万の現金を身につけるから、リスクが大きい」とその労働条件が必ずしも良くなく、「11名の新しい普及員の9人が相ついで離れた」と小額貸付センターそのものの運営に関して人的面で深刻な面を抱えていることを報告している。つまりこのセンターの社会的存在意義、必要性が高く、そのことは資金需要が増加に表れているが、こうした組織の機能を継続させていくためには、センター自体の経営改善とともにこの組織の社会的セーフティネットとして公的必要性を位置づけ、自律的安定経営が可能となるまでの公的支援計画樹立が必要といえよう。こうした労働条件や組織体制の他にも貸付時期の偏在による資金調達という経営問題も存在している。農作業をしていくために資金が必要となり、農産物を収穫する農繁期には資金需要が少なく貸付資金の回転も遅くなるという特徴がみられるが、それに応じた資金調達体制の構築がされてないために資金不足となる時期も出てきており、その是正が課題となっている。

(2) 小額貸付センターの継続的組織経営に向けた対応

こうした課題に対し「社会の資金導入のため、政府や非常利組織、企業の資金源を調整」、「資金規模の拡大」、「従業員に傷害保険を適用」といった対応を取ろうとするとともに、「全国各地から千余の専門家の意見」、「フランスや米国などのたくさんの小額貸付機関と協力パートナー」により、中国内外の小額貸付の専門家や機関と連携することにより組織的な対応を行っている。これまで、農村金融が未整備で無担保の小額貸付サービスを受けることが出来なく、高利の民間個別金融に甘んじなければならぬために地域資源利用による地域産業創出も困難であったが、この小額貸付により農業経営改善、多様な雇用機会も出現することで地域経済は改善された。既述したように小額金融貸付利子年利10.2%と別枠で村組合活動費が年利1.2%の手数料が上積みされ四半期毎に年

利11.4%となっているが、このことにより資金需要と共に生活文化改善が実施され、これが貸付センターに対する金融面以外の信頼となっている。また、リスク補償として貸付後1か月目の村組合会議で貸付額の1%を個人貯金させ、半年後には貸付額の5%の貯金が実現し、これは貸付額返済資金ともなる。この貸付年利率10.2%は、報告書①も「比較的高利」と表現しているが、貸付にあたって事前調査や広報活動、普及員の育成・保険費用、交通や道路事情の悪いところの移動費用といった取引費用を多く要するのがこの小額貸付システムとなっている。同時に別枠で村組合活動費を徴収し、識字率向上等の文化活動機能を果たしているとはいえ「低労賃」ということからこうした経営・自然条件にある小額貸付システムにおいては既述したような資金調達時期の課題があるとはいえ必要不可欠な貸付利率といえよう。

7. おわりに

中国西北部内陸部にある塩池県小額貸付サービスセンターによる貧困緩和システムについてその内容をみてきた。この地域の農村生活は、半砂漠地域という自然条件と中国西北部という改革開放による経済発展から取り遅れた所であり、自ら何らかの経済活動を始めるにも金融機関から取り残されていた。この地域に小額貸付システムが採り入れられる事により、漸く、小規模ではあるが自発的な経済活動が起動することになった。塩池県の事例を見る限り、単なる資金の貸し付けではなく、生活・文化向上活動と一体となって経済活動も動き出していることが明らかになった。さらに、小額貸付機関が農業情報提供、農産物・日用品販売、農業資材購入店舗経営にも関与しており、貧困農家の総合扶助機能的役割を果たしている事も明らかになった。これは、未発達な経済活動地域の一つであるこの地域の小額貸付機能の特徴といえる。そこには、小額貸付サービスセンターの献身的な働きが存在しており、そうした支援とともにそうした経済的システムを待ち望んでいた人達が存在した事が貸付事業を継続させてきた大きな要因といえる。地域資源を利用した施設農業と羊畜業、甘草産業の存在、石膏といった地下資源の存在といった小規模経済基盤を経済発展に活かすことを可能にする金融機関の存在しなかったため貧困状態が継続してきたといえる。これらを小規模金融システムで緩和し、それに各級政府が支援をはじめ、開発銀行といった公的金融機関も関与しはじめ、マスコミもこれらを報道し始めることにより、漸く起動し始めてきているのが現在の状況である。これらの点から本稿は、

中国国内における内発的発展の事象を実証できたといえよう。ただ、小額貸付サービスセンター報告における問題の所在にも指摘されているように依然、初発的な金融機能であり、小額金融システム機能のさらなる認識と効率的な金融機関としての機能化が今後求められている。これまでの実績に対し、農家自身の信頼は高く、この機能の継続による効率化が今後の課題となっている。

注

- 1) Hawlader Md. Abdul Malek, Kenji Taniguchi and Mohd. Nazrul Islam: Service Charge of MF-NGOs in Bangladesh: A Case Study of Sadar Thana in Tangail District. *Journal of Rural Problem*, 43(1): 240-245 (Jun., 2007)
- 2) 藤田幸一は、『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動—貧困削除のための基礎研究—』京都大学郭術出版会、2005年の「第5章農村インフォーマル金融の階層間「逆流」」において、実態調査により「インフォーマル金融における貸し手は、村の地主や上層農であり、借り手は下層農や小作農や土地なし労働者」という「通説」を正し、「インフォーマル金融の「逆流」」を示し、そのメカニズムと性格を考察した。この実態調査において「非農業部門」との関連で「逆流」現象を説明しており、農村金融問題解明に非農業部門考察が不可避性を示している。Hawlader Md. Abdul Malek は、注1)においてマイクロファイナンスの利子及び独自な手数料の存在と意義を考察し、別稿で、「女性起業」による「女性の経済的状況の改善」、「貧困軽減」を果たすマイクロファイナンス機能に対し、「貧困軽減」は認めるものの必ずしも「女性」主体となっていないことを実証分析により明らかにした。Hawlader Md. Abdul Malek, Kenji Taniguchi and Mohd. Nazrul Islam: Characteristics of Drawbacks of Microcredit Programs in Bangladesh: Perspective from Member Borrowers of Microfinance NGOs. *Journal of Co-operatives Studies*, 26(3): 85-94 (Dec., 2007) Hawlader Md. Abdul Malek, Kenji Taniguchi and Mohd. Nazrul Islam. このようにマイクロファイナンスの多様な機能の実証が進んでいる。
- 3) 内発的発展論に関する研究蓄積は多いが、その発展形態の経済学的位置付けと方策の経営経済学的考察について必ずしも多くない。西川潤『人間のための経済学』岩波書店、2000年、中村剛治郎「内発的発展論の発展を求めて」『政策科学』7-3, pp. 139-161, Mar. 2000,

中国内陸部の内発的発展については、西川潤「内発的発展の理論と政策—中国内陸部への適用を考える—」『早稲田大学政治経済学雑誌』No.354, pp.36-43, 2004, 中国西部経済発展論として郭少新「西部経済発展—从比較優勢競争優勢—」『山西師範大学紀要』第6巻, 2004年(中文), 寧夏回族自治区における農村民間金融実態については、高石鋼「20世紀90年代以来寧夏農家間貸借実証分析—以塩池県, 同心和中寧県為例—」『甘肅社会科学』第12巻, 2006年(中文)

- 4) ここに示す塩池県小額貸付サービスセンターの「塩池県小額貸付の紹介」, 「塩池県小額貸付サービスセンターの2007年度作業レポート」の原資料は、塩池県小額信貸服務中心「塩池県小額信貸簡介」2007年12月30日(中文), 塩池県小額信貸服務中心「塩池県小額信貸中心2007年度工作總結」2007年12月(中文)である。本稿の「」は、これらの統計による。
- 5) 中国31直轄市・省・自治区における寧夏回族自治区の経済的位置を2006年の農村居住者1人当たり平均純収入及びその内訳の賃金収入, 農家経営純収入, 財産収入, 移転収入でみると、寧夏回族自治区は、それぞれ2760.14(0.769), 823.09(0.599), 1662.07(0.861), 53.55(0.532), 221.63(1.227) (単位は元, ()内は対中国平均, 『中国統計年鑑』2007年), また、同様に

寧夏回族自治区における22の市・県・区における塩池県の対自治区比率を見ると、それぞれ0.811, 0.486, 0.800, 0.616, 2.149 (『寧夏統計年鑑』2007年)となり、農業収入も少なく、地域内に雇用機会が無いために、地域外に収入源を見つけ、財産も少ない地域となっている。

塩池県女性発展協会による小額貸付プロジェクトは、塩池県愛徳基金會が出資する「塩池県愛徳砂漠改造綜合發展プロジェクト」という基礎の上に、塩池県委員政府, 中国農業大学, フランスの国際的NGO PlaNet Financeと協力して1996年に開始された。ここでは、資金の貸付とともに貸付先の自己発展能力と生活の質の向上を目指している。この協会は、1998年に設立されたNGO環境と貧困緩和のための寧夏センター(寧夏扶貧与環境改造中心)の指導と支援を受けている。

- 6) これは組織変更による収益効果「rent」の発生といえる。P.Milgrom and J.Roberts (奥野正寛・伊藤秀史・今井晴雄・西村理・八木甫訳)『組織の経済学』NTT出版, pp.298-299, 1997年, 新庄浩二『産業組織論』有斐閣, pp.64-65, 2004年
- 7) 寧夏回族自治区の地下資源は豊富で「石膏埋蔵量は、全国トップ」, 「石炭生産高は中国で3位」となっている。『中国西部寧夏』五洲伝播出版社, 2001年